



中学3年生 タイ交換 留学

～交換留学生たちの確かな成長～

広島なぎさ中学校・高等学校
教諭 天田 絢子

はじめに

平成28年度に始まった、タイ国立カセサート大学附属学校(通称:サティカセ)との交換留学は、今年度で三回目を迎えました。本校では四つの教育目標の一つ「国際性の涵養」を目指し、中高6か年の教育活動の中で様々な国や地域との交流プログラムが用意されています。その中でもサティカセとの交換留学は最も新しく、現在は草創期にあたるといえます。

私は第一回目の交換留学を中学3年生の学年担当教員として、第二回目を引率教員として、そして今年度、第三回目を学年担当教員かつ引率教員として関わってきました。学年担当教員は受入れの際の歓送迎会を中心に、生徒が主体的に行事に参加し、サティカセの生徒と交流するサポートを行います。また引率教員は、現地指導も然ることながら、およそ半年間に及ぶ事前・事後学習を通して交換留学生の学びを深めるサポートを行います。特にタイの歴史や地理、文化などの研究テーマを各自設定して行うレポート執筆は、課題意識を持って交換留学に臨むことができるので、学びを深める一助となっています。

タイ交換留学の目標

サティカセのある首都バンコクは今まさに大きく経済発展を遂げている都市です。その中で人々は自国の歴史、文化、伝統への高い誇りを持ち、国家、仏教、国王に常に敬意を払って生活しています。欧米圏や日本とは異なる独特の世界、価値観が存在するタ

イとの交換留学では、本校の中学2年生で実施しているパサデナ中学校(ニュージーランド)との交換留学の目標を発展させる形で、以下のような目標設定をしています。

- ①異文化のなかで自文化を捉え直すとともに、異文化への理解を深める。
- ②言葉や価値観の異なる人たちとの生活を通して、相互理解しようとする態度を養う。
- ③自文化を大切にしながら、多文化を受容し、ダイナミックに国際化、経済発展するアジアの有り様を知る。

今年度の訪問と受入れ内容

初年度に8泊9日で始まったサティカセへの訪問は、現地プログラムの充実から年々日数が増え、今年度は7月22日から8月6日までの15泊16日となりました。タイでは盛大な歓迎を受け、サティカセの一員として生活をしました。通常の授業以外にも音楽や舞踊、料理など伝統文化を体験するアクティビティが数多くあり、今年度は新たにムエタイの授業、ナコンパトム県への訪問などが加わり、さらに充実した内容となりました。また学年集会の場で、研究テーマのプレゼンテーションと質疑応答を英語で行いました。



研究発表の様子

本校での受入れは8月26日から9月8日までの14日間でした。夏休み明けの全校集会で一人ひとり自己紹介をした後、中学3年生の各クラスに入りました。今年度は滞在期間の中日に全体の歓迎会があり、文化交流としてサティカセ生はタイの伝統舞踊の披露、本校からは空手、なぎなた、書道パフォーマンスの披露がありました。また華道、茶道、書道などの伝統文化を体験したり、マツダミュージアムや平和公園を訪問したりするなど、様々なプログラムが目白押しの毎日でした。



全校生徒の前で自己紹介するサティカセ生

生徒たちは普段、日本語・タイ語の母国語をそれぞれ使いますが、互いにコミュニケーションを取る際は共通言語として英語を使います。私が担任をしているクラスでも相手の伝えようとする姿が多く見られました。生徒たちは初日こそぎこちない雰囲気でしたが、サティカセ生の心遣いにも感銘を受けたようで、あっという間に距離を縮め、最終日は笑顔と涙で別れを惜しむ様子が見られました。本校を訪れる留学生は欧米圏が多いので、タイの生徒たちとの交流は、クラスの生徒たちの価値観を広げるきっかけにもなり、とても貴重な機会だといえます。以下は、

担任をしている生徒の感想です。

〈生徒の感想〉

言語が違うので、伝えたいことが伝わらないということもたくさんあり、英語の勉強の必要性を強く感じた。しかし、サティカセの人たちとサッカーやバレーボールをしたり写真を撮ったりと仲良くすることができ、言語が違って人と仲良くすることができるということを勉強できたのがよかった。文化の違いや宗教観の違いもあり、大変なこともあったが、この経験を将来の夢の実現のために今後に繋げるとともに、海外の人たちとも積極的に交流をしていきたいと思った。

(3年生男子)



歓送会で上映されたスライドショーを見る生徒たち

交換留学生の成長

これまでの3年間で、14人の生徒が交換留学生としてこのプログラムに参加しました。中学2年生のパサデナ交換留学にも参加したことのある生徒、海外渡航自体が初めての生徒など、海外経験も英語のスキルも様々ですが、交換留学に参加した生徒の満足感はとても大きく、それぞれに大きな学びと成長がみられます。昨年度引率として関わった生徒の、当時の感想です。

同じアジアに属する国同士でも、文化は全く異なっていました。異文化をしっかりと学びたいという目的でこの交



換留学に参加しましたが、タイの文化だけでなく、地理や歴史も学ぶことができました。タイならではの魅力を感じることができたこの経験から、これからももっとたくさんの文化を学び、他国の文化を尊重し合うということを今後活かしていきたいです。

(3年生男子)

私の研究テーマは「日本とタイにおける英語教育の比較」でした。日本で調べたことを基にタイで実際に確認しましたが、サティカセ生の英語への興味・関心の高さにとっても驚きました。また人として他人に対し、常におもいやりの心を持つという当たり前のことを改めて学び、目上の人々に対して礼儀を尽くすということも学びました。

(3年生女子)

現在高校1年生となった彼らは、タイ交換留学での学びを活かして活躍の場を広げ、一年間の語学留学に行ったり、自主的にタイ語の勉強を行い、タイ語会話の冊子を作成したりしています。また現在高校2年生となる、初年度の交換留学生の一人は英語



交換留学生が作成した、「ゼロからのタイ語」

のスキルを活かし、平和公園を訪れる際のボランティアガイドを毎年行っています。それぞれが置かれている状況によって行動に移せることは様々ですが、この交換留学で得たものが今後の進路選択などにも活かされるのではないのでしょうか。

今後に向けて

コーディネーターの教員を中心として少しずつ改良を加えながら、第三回目の交換留学を終えることができました。今年度は新たになぎさ公園小学校でも交換留学が始まりました。現地では引率教員もホームステイを行うので、生徒同様多くのことを学び、それを一緒に共有できます。それぞれの発達段階に応じて得られるものも様々で、生徒たちにとってサティカセ生との交流は常に驚きと発見の連続だと感じます。欧米や日本とは異なる文化にそれまでの価値観が揺らぎ、戸惑いながらも、タイの人々の持つ圧倒的なホスピタリティ精神が生徒たちに自己肯定感をもたらし、視野を大きく広げるきっかけをつくっています。多感な中学時代のこの経験がじっくりと根付き、確実に生徒たちの成長に繋がっているこの交流が、今後も末永く続くように願っています。